

編集後記

『企業家研究』第26号では、論説等の掲載はありませんでした。投稿はあったものの、審査の結果、掲載には至っていません。レフェリーの指摘を受け、改訂稿が提出されることを期待しています。

さて、会員の皆さまにはすでにご承知のことと思いますが、2024年12月28日に、本企業家研究フォーラム創設者のお一人である加護野忠男先生がご逝去されました。加護野先生には、企業家研究フォーラムの立ち上げから今日に至るまで、大変お世話になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。『企業家研究』第26号には、加護野先生とともに創設に携わった宮本又郎先生に、追悼文をご執筆いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

そのほか、本号では「書評」4件、「FES便り」2件、「私の企業家研究」1件、「会務報告」が掲載されております。書評は通常より少ない4冊を紹介しておりますが、いずれもタイムリーなテーマであり、かつ、力作ぞろいで読み応えのある書籍です。

「FES便り」は、2024年度から「講座・企業家学」および「企業家に聞く」の開催方式がそれぞれ年2回に変更されたため、年度後半（11月～12月）に開催されたものを講演者またはインタビュアーにご執筆いただきました。講演等開催日から入稿までの期間が短く、執筆者にはご負担をおかけして申し訳ございません。2月発行の『企業家研究』第27号では、2025年度前半（6～7月）に開催されたものを掲載する予定です。

「私の企業家研究」は、ベテラン研究者にご自身の研究方法についてご執筆いただくコーナーで、今回は「企業家の日記」の史料的价值についてご紹介いただきました。丹念な読み込みにより新たな事実が発見されることもあり、大変貴重な史料であることがわかります。

また今号では、2022年～2024年に投稿された論説等のレフェリーをご担当いただいた皆さまの

お名前を掲載させていただきました。皆さまのご協力により、『企業家研究』は高い学術的水準を維持することができます。ここに改めて御礼申し上げます。

以上、『企業家研究』第26号は、新たな編集委員会メンバーが担当した最初の号になります。まだ不慣れなところもあるかと存じますが、今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（鹿住 倫世）